教育委員提案①

小中学生への認知症の理解と高齢者との交流について

戸田市教育委員会
教　育　政　策　室

認知症の理解と高齢者との交流について

小・中学校　教育課程上の位置づけ「家庭科」（●学習指導要領より抜粋）

校種	小学校「家庭科」	中学校「技術・家庭科」
内容	A　家族・家族生活	A　家族・家族生活
内容・内容の取扱い	【内容】 ⑶家族や地域の人々との関わり イ家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること。 （内容の取扱い） 幼児又は低学年の児童や**高齢者など異なる世代の人々との関わりについても扱うこと**。また、イについては、他教科等における学習との関連を図るよう配慮すること。 （解説の中で、「個々の家庭の状況を十分に把握した上で、家庭や地域の人々の理解と協力を得て、適切な学習活動を行うようにする。」という記載あり）	【内容】 (3)家族・家庭や地域との関わり ア(イ)家庭生活は地域との相互の関わり　で成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。 （内容の取扱い） （3）のアの(イ)については、**高齢者の身体の特徴についても触れること**。また、**高齢者の介護の基礎に関する体験的な活動ができるよう留意**すること。

認知症の理解と高齢者との交流について

高等学校　教育課程上の位置づけ「家庭科」（●学習指導要領より抜粋）

校種	高等学校「家庭科（家庭基礎）」	高等学校「家庭科（家庭総合）」
内容	A　人の一生と家族・家庭及び福祉	A　人の一生と家族・家庭及び福祉
内容・内容の取扱い	【内容】 （4）高齢期の生活と福祉 ア高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けること。 （内容の範囲や程度） **（4）については、認知症などにも触れること。** （解説の中で、「認知症などについては、物忘れと認知症の違いや認知症への対応方法についても触れる。）と記載あり。	【内容】 (4)高齢者との関わりと福祉 ア（ア）高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深めること。 (イ)高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めること。 （内容の範囲や程度） (イ)については、高齢者福祉の基本的な理念に重点を置くとともに、例えば、**認知症などの事例を取り上げるなど具体的な支援方法についても扱うこと。**

認知症の理解と高齢者との交流について

小・中学校　教育課程上の位置づけ「総合的な学習の時間」

（●学習指導要領より抜粋）

校種	小学校「総合的な学習の時間」	中学校「総合的な学習の時間」
第3 指導計画の作成と内容の取扱い	1　指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (5)学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、**福祉・健康**などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。 （解説の中で、現代的な諸課題に関する探究課題を設定する場合、以下の例が挙げられている。 **福祉：身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々**	1　指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (5)学習活動については，学校の実態に応じて，例えば国際理解，情報，環境，**福祉・健康**などの横断的・総合的な課題についての学習活動，生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動，地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動，職業や自己の将来に関する学習活動などを行うこと。 （解説の中で、現代的な諸課題に関する探究課題を設定する場合、以下の例が挙げられている。 **福祉：身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々**

認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座について

認知症に関する基本的な知識や認知症の人への接し方を学ぶことにより、
認知症の人やその家族を地域で支える応援者（認知症サポーター）となる。

学校向け講座内容（目安：小学校４５分、中高生６０分）
- 認知症とはどういうものか
- 認知症の人と接するときの心がまえ
- 認知症介護をしている人の気持ちを理解する

埼玉県認知症サポーター証の例

（表）



（裏）



引用元：https://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/kyaravan/kyaravan.html

認知症サポーター養成講座

小学校　※コロナ禍以前に実施の学校あり





中学校　※今年度も喜沢中学校で実施予定





認知症サポーター養成講座については、地域包括支援センターの講師を招聘

高齢者との交流について（総合的な学習の時間）

高齢者が過ごす施設見学（小学校）





地域活性化プロジェクト（小学校）





地域の高齢者等との交流について

昔遊び体験学習（小学校）





お囃子体験学習（小学校）

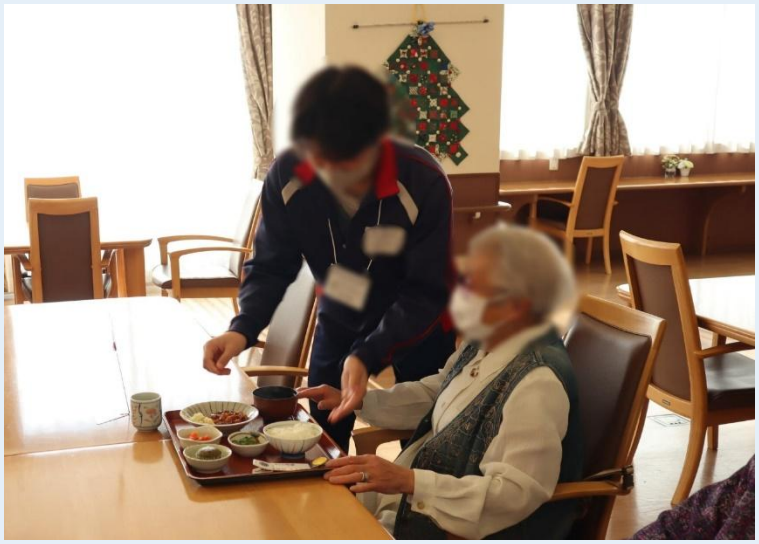




高齢者との交流について

職場体験（社会体験チャレンジ事業）を通した高齢者との交流

市内各中学校







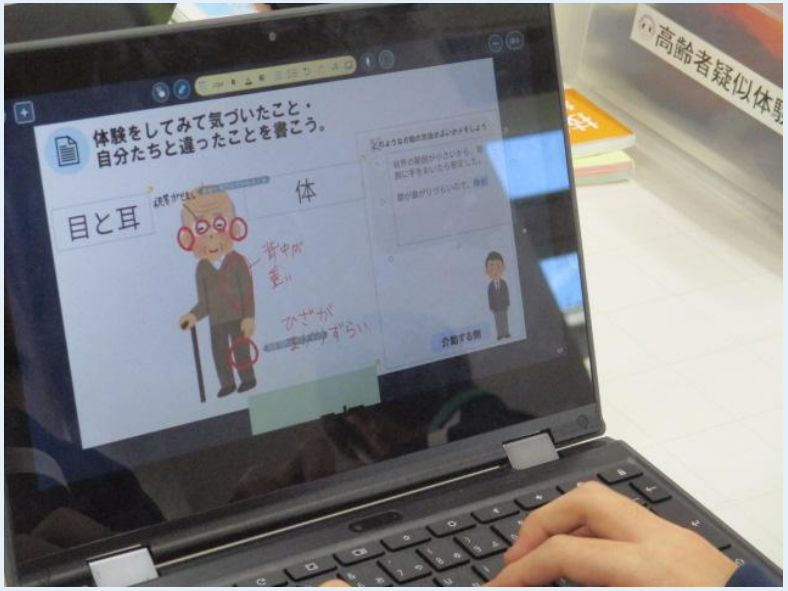
高齢者疑似体験学習

高齢者の身体の特徴を踏まえた関わり方を理解する









カリキュラム・マネジメントの重要性

求められる「○○教育」の増加

学習指導要領【総則】において記載のある「○○教育」

▶総則編において「現代的な諸課題に関する強化等横断的な教育内容」として例示

・伝統や文化に関する教育・主権者に関する教育・消費者に関する教育・知的財産に関する教育
・郷土や地域に関する教育・海洋に関する教育・環境に関する教育・放射線に関する教育
・生命の尊重に関する教育・心身の健康の保持増進に関する教育・食に関する教育 ・防災を含む安全に関する教育

▶明記はないが内容として存在していると考えられるもの

・人権教育・情報教育・プログラミング教育・性教育・キャリア教育・国際理解教育

学習指導要領に記載がない・上記の一部を含む・新たに生じた「○○教育」

ネットリテラシー教育／情報モラル教育／著作権教育／メディアリテラシー教育／NIE教育
ユニバーサルデザイン教育／インクルーシブ教育／介護教育／ 芸術教育／統計教育／平和教育
租税教育／福祉教育／社会保障教育／動物愛護教育／起業家教育・アントレプレナーシップ教育
森林教育／河川教育／エネルギー教育／自殺防止教育／図書館教育／高齢化社会教育
いじめ防止教育／ オリンピック・パラリンピック教育／ESD（持続可能な開発のための）教育
気候変動教育／屋外教育（自然体験教育）／観光教育／がん教育／多文化共生教育／[illegible]教育
産業教育／ STEAM教育／緊急救命教育／グローバル教育／ボランティア教育／**認知症理解教育**／
LGBT（ジェンダー）教育／アンガーマネジメント教育／職業教育／コミュニケーション教育 など

「○○教育」の内容は、各教科等に溶け込む形で存在

カリキュラム・マネジメントの重要性

▲求められる「○○教育」等が増加・多様化する中、カリキュラム・オーバーロードの現状であり、教師も児童生徒もその内容が消化しきれていない。

▲単発で講師を呼んで話を聞く特別授業的な扱いであることが多く、深まりがないケースも多い。

▲「○○教育」について、明確な育成すべき資質・能力や評価方法が不明確であり、準備等にあたっては教師の負担も多い。

学習指導要領をベースに各教科等でする中、
カリキュラム・マネジメントの推進が重要となる

各学校が、学校運営協議会の意見や学校評価も踏まえながら、子供たちにどのような資質・能力を身に付けさせたいかを明確にし、一貫性のある方針のもとに、産官学と連携した特色ある取組として、引き続き様々な教育活動を実施していく。